# 「市立豊中病院内科専門研修プログラム」



市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 5 月 20 日）

基幹病院：市立豊中病院

〒560-8565 大阪府豊中市柴原町 4 丁目 14 番 1 号
TEL 06-6843-0101（代）
http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/

## 1. 理念・使命・特性

### 理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院である市立豊中病院を基幹施設として，大阪府豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て大阪府の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として大阪府全域を支える内科専門医の育成を行います.

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

### 使命【整備基準 2】

1) 大阪府豊能医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.
4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

### 特性

1) 本プログラムは，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院である市立豊中病院を基幹施設とし

て，大阪府豊能医療圏，および兵庫県南西部に位置する連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります．

2) 市立豊中病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

3) 基幹施設である市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であります．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

4) 基幹施設である市立豊中病院および連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，80 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例（少なくとも 20 症例）の病歴要約を作成できます（巻末別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

5) 市立豊中病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 2 年目もしくは 3 年目の 1 年間，連携施設で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

6) 基幹施設である市立豊中病院での 2 年間と連携施設での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（巻末別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

**専門研修後の成果【整備基準 3】**

内科専門医の使命は，1）高い倫理観を持ち，2）最新の標準的医療を実践し，3）安全な医療を心がけ，4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2）内科系救急医療の専門医
3）病院での総合内科（Generality）の専門医

4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

市立豊中病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，大阪府豊能医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

## 2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，市立豊中病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数はシーリングにより、1 学年 5 名とします．

1) 市立豊中病院内科後期研修医はこれまで 1 学年 5～7 名の実績がありました。新内科専門医制度においては、定員通り 2017 年度が 9 名、2018 年度も 9 名の一次応募者があり、全員採用に至っています。2019 年度～2025 年度は、シーリングのため、5 名の採用となりました。

2) 剖検体数は 2018 年度 13 体、2019 年度は 2 体、2020 年度は 6 体、2021 年度は 9 体、2022 年度は 8 体、2023 年度は 7 体、2024 年度は 8 体、2025 年度は 4 体です。

表．市立豊中病院内科系専門診療科別診療実績（2025 年度）

| | 入院患者実数（人／年） | 外来延患者数（延人数／年） |
|---|---|---|
| 消化器内科 | 2,383 | 38,308 |
| 循環器内科 | 1,383 | 16,127 |
| 脳神経内科 | 598 | 7,379 |
| 内分泌・代謝内科 | 237 | 12,827 |
| 腎臓内科 | 364 | 8,714 |
| 呼吸器内科 | 603 | 9,356 |

| | | |
|---|---|---|
| 血液内科 | 591 | 14,656 |
| 内科（総合内科） | 920 | 1,704 |
| 合計 | 7,079 | 109,071 |

2024 年度より、当院では内科の再編を実施し、内科系科は、内科（老年・総合内科）、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科の 8 診療科で構成されることになりました。内科（老年・総合内科）では、感染症を初めとする一般内科疾患や専門診療科を特定出来ない未診断症例などの診療を行いますが、その主任部長は血液内科主任部長が兼任し、実際の診療については、老年・総合内科専任医長をはじめ 8 診療科の全医師が協同であたります。すべての領域で外来患者診療を含め，3 学年 15～20 名の専攻医に対し十分な症例を経験させることが可能です。

この他、当院は 24 時間 365 日の救急外来体制をとっており、2025 年度の実績は以下の通りです。

救急外来受診者数：　21,979 名
救急車搬入件数：　9,088 件
救急外来からの入院患者数
　消化器内科：　831 名
　循環器内科：　578 名
　神経内科：　490 名
　内分泌・代謝内科　55 名
　呼吸器内科　247 名
　血液内科　102 名
　腎臓内科　89 名
　総合内科　831 名

3) 内科系関連 13 領域のうち膠原病、アレルギー、感染症を除く 10 領域で専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（「市立豊中病院内科専門研修施設群」参照）.
4) 3 学年 15 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，80 症例以上の診療経験と 20 病歴要約の作成は達成可能です.
5) 連携施設には，高次機能・専門病院 4 施設，地域基幹病院 16 施設，計 20 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.
6) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，120 症例以上の診療経験は達成可能です.

## 3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，

「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断･治療方針決定を指します. さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります. これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

## 4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】（巻末別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）
主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします. 内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります. そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

○専門研修（専攻医）１年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，40 症例以上を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します. 以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修（専攻医）２年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，80 症例以上の経験をし，J-OSLER にその研修内容を登録します.
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 20 症例以上記載して J-OSLER へ登録します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います. 専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）３年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します．
・専門研修修了に必要な病歴要約 29 例すべてを記載して J-OSLER へ登録します．
・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します．
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します．
・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします．J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します．

市立豊中病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます．

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～5）参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例

の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます．

③ 3年目の研修では総合内科外来やSubspecialty診療科外来を週1回，1年以上担当医として経験を積みます．

④ 救急診療科の内科外来で内科領域の救急診療の経験を積みます．

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます．

⑥ 希望に応じて内視鏡検査や心臓カテーテル検査などSubspecialty診療科検査を担当します．

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準14】

１）内科領域の救急対応，２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，４）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，５）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します．

① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科でのカンファレンス

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会

※ 内科専攻医は年に2回以上受講します．

③ CPC（基幹施設2024年度実績6回）

④ 研修施設群合同カンファレンス（2025年度：北大阪内科研究会、北摂血液疾患懇話会、北摂内視鏡研究会、大阪腎疾患研究会、大阪大学内分泌・代謝研究会など年8回開催予定）

⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：豊中糖尿病研究会、豊中胃内視鏡勉強会、はーと会、中之島循環器代謝フォーラムなど；計2024年度実績4回）

⑥ JMECC 受講（基幹施設および大阪大学附属病院）：基幹施設ではJMECCの2024年度開催実績が１回）

※ 内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに1回受講します．

⑦ 内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）

⑧ 各種指導医講習会/JMECC指導者講習会

など

4) 自己学習【整備基準15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルをA（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）とB（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルをA（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルをA（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します．

① 内科系学会が行っているセミナーのDVDやオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にあるMCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5) 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.

・専攻医による逆評価を入力して記録します.

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

## 5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

市立豊中病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（「市立豊中病院内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である市立豊中病院教育研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

## 6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

市立豊中病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidence-based-medicine）.
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
② 後輩専攻医の指導を行う.
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

## 7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

市立豊中病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します.
② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.

④　内科学に通じる基礎研究を行います.
を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います.
なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，市立豊中病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

## 8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.
市立豊中病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である市立豊中病院内科専門研修センター
が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.
① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

## 9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．市立豊中病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府豊能医療圏から構成されています.
市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.
連携施設は内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能である大阪大学附属病院，兵庫医科大学病院、専門病院である国立病院機構刀根山病院，近畿中央呼吸器センター、大阪はびきの医療センター、地域基幹病院である市立池田病院，箕面市立病院，市立

吹田市民病院、済生会千里病院、大阪急性期・総合医療センター、兵庫県立西宮総合医療センター、医療法人川崎病院、関西労災病院、市立伊丹病院、市立芦屋病院、西宮市立中央病院、国立病院機構大阪医療センター、大阪警察病院、りんくう総合医療センター、日本生命病院、大阪労災病院で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，市立豊中病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

病院内科専門研修施設群は，大阪府豊能医療圏および近隣医療圏から構成しています．いずれも大阪府北部または兵庫県南西部に位置し、交通の利便性はよく移動はすみやかに行なえ、連携に支障をきたす可能性はありません.

## 10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

市立豊中病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

市立豊中病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

## 11.　内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

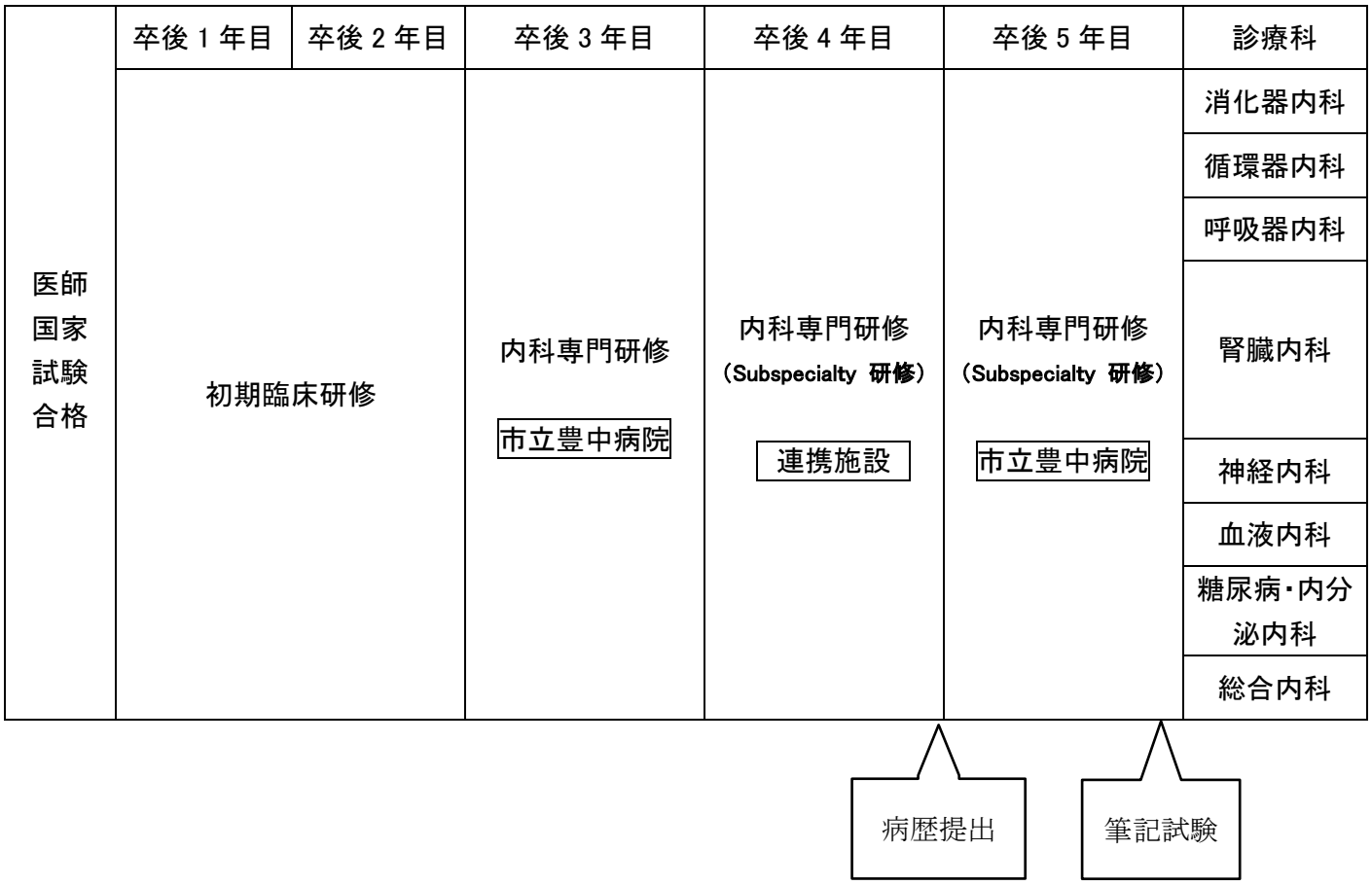



**図１．市立豊中病院内科専門医研修プログラム（概念図）**

1 年目は基幹施設である市立豊中病院内科で専門研修を、2 年目は連携施設で専門研修を、3 年目は市立豊中病院で Subspecialty を含めた専門研修を行なうのを原則とします。希望があれば内科研修当初 2 年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修(Subspecialty 重点研修)の開始を考慮します。

## 12.　専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

(1) 市立豊中病院　教育研修センターの役割

・市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行います.
・市立豊中病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.
・適宜、J-OSLER 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
・6 か月ごとに病歴要約作成状況を追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
・年に複数回（7～9 月と 1 ～3 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は J-OSLER を通じて集計され，速やかに担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します.
・メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（7～9 月と 1～3 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 1～5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 3～5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は J-OSLER を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います.
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が市立豊中病院内科専門研修プログラム研修委員会により決定されます.
・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します.
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や研修委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲

で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医はSubspecialty上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・専攻医は，専門研修2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し，J-OSLERに登録します．担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修3年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.

(3) 評価の責任者

・年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し，統括責任者が承認します.

(4) 修了判定基準【整備基準53】

1) 担当指導医は，J-OSLERを用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します.

ⅰ) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し，計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容をJ-OSLERに登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計120症例以上の症例(外来症例は登録症例の1割まで含むことができます)を経験し，登録済み（巻末別表1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

ⅱ) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理

ⅲ) 所定の2編の学会発表または論文発表

ⅳ) JMECC受講

ⅴ) プログラムで定める講習会受講

ⅵ) J-OSLERを用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2) 市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約1か月前に市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，J-OSLERを用います．なお，「市立豊中病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準44】と「市立豊中病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準45】を別に示します.

## 13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準34,35,37～39】（「市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

1) 市立豊中病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

ⅰ) 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会と

の連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者（岩橋博見）、内科Subspecialty 分野の研修指導責任者(各診療科部長)および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）．市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を，市立豊中病院教育研修センターにおきます．

ii) 市立豊中病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに研修委員会を設置します．委員長１名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年９月と３月に開催する市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します．

基幹施設，連携施設ともに，毎年４月初旬までに，市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います．

① 前年度（または前々年度）の診療実績

a) 病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)１か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数．

③ 前年度の学術活動

a) 学会発表，b)論文発表

④ 施設状況

a) 施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催．

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医数、日本肝臓学会専門医数、日本老年医学会専門医数、日本感染症学会専門医数、

## 14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します．

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います．

## 15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法、当院における 36 協定を順守することを原則とします．

専門研修１年目～3 年目は、基幹施設である市立豊中病院ないし連携施設の就業環境に基づき，就業します（「市立豊中病院内科専門研修施設群」参照）．

基幹施設である市立豊中病院の整備状況：

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
・豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています.
・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります.
・ハラスメント委員会が市立豊中病院内に整備されています.
・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については,「市立豊中病院内科専門施設群」を参照. また, 総括的評価を行う際, 専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い, その内容は市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが, そこには労働時間, 当直回数, 給与など, 労働条件についての内容が含まれ, 適切に改善を図ります.

尚、2024 年度から実施される医師の働き方改革関連法案に基づく医師の時間外労働の上限規制については、当院では地域医療確保暫定特例水準（B 水準）および集中的技能向上水準（C-1 水準）の指定を受けています。2024 年度の当院所属の内科専攻医（当院プログラムおよび連携プログラムを含む）の年間時間外労働は平均 1106.26 時間、最高は 1418.17 時間でした。今後、当院で作成した医師労働時間短縮計画（2022 年 9 月）にそって、研修の効率化を図るとともに、専攻医の時間外労働の短縮および適正化を図っていく予定です。

## 16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います. 逆評価は年に複数回行います. また, 年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には, 研修施設ごとに逆評価を行います. その集計結果は担当指導医, 施設の研修委員会, およびプログラム管理委員会が閲覧します. また集計結果に基づき, 市立豊中病院内科専門研修プログラムや指導医, あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会, 市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会, および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて, 専攻医の逆評価, 専攻医の研修状況を把握します. 把握した事項については、市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお, 研修施設群内で何らかの問題が発生し, 施設群内で解決が困難である場合は, 専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・担当指導医, 施設の内科研修委員会, 市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会, および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし, 市立豊中病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して

市立豊中病院内科専門研修プログラムを評価します.
·担当指導医，各施設の内科研修委員会，市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます.

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応
市立豊中病院臨床研修センターと市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会は，市立豊中病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて市立豊中病院内科専門研修プログラムの改良を行います.
市立豊中病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

## 17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，日本専門医機構が発表するスケジュールに従って、内科専攻医を募集し、採用の採否を決定します.

## 18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に J-OSLER を用いて市立豊中病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから市立豊中病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です.

他の領域から市立豊中病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに市立豊中病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります.

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 7 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません

## 市立豊中病院内科専門研修施設群
## 研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携 1 年間）

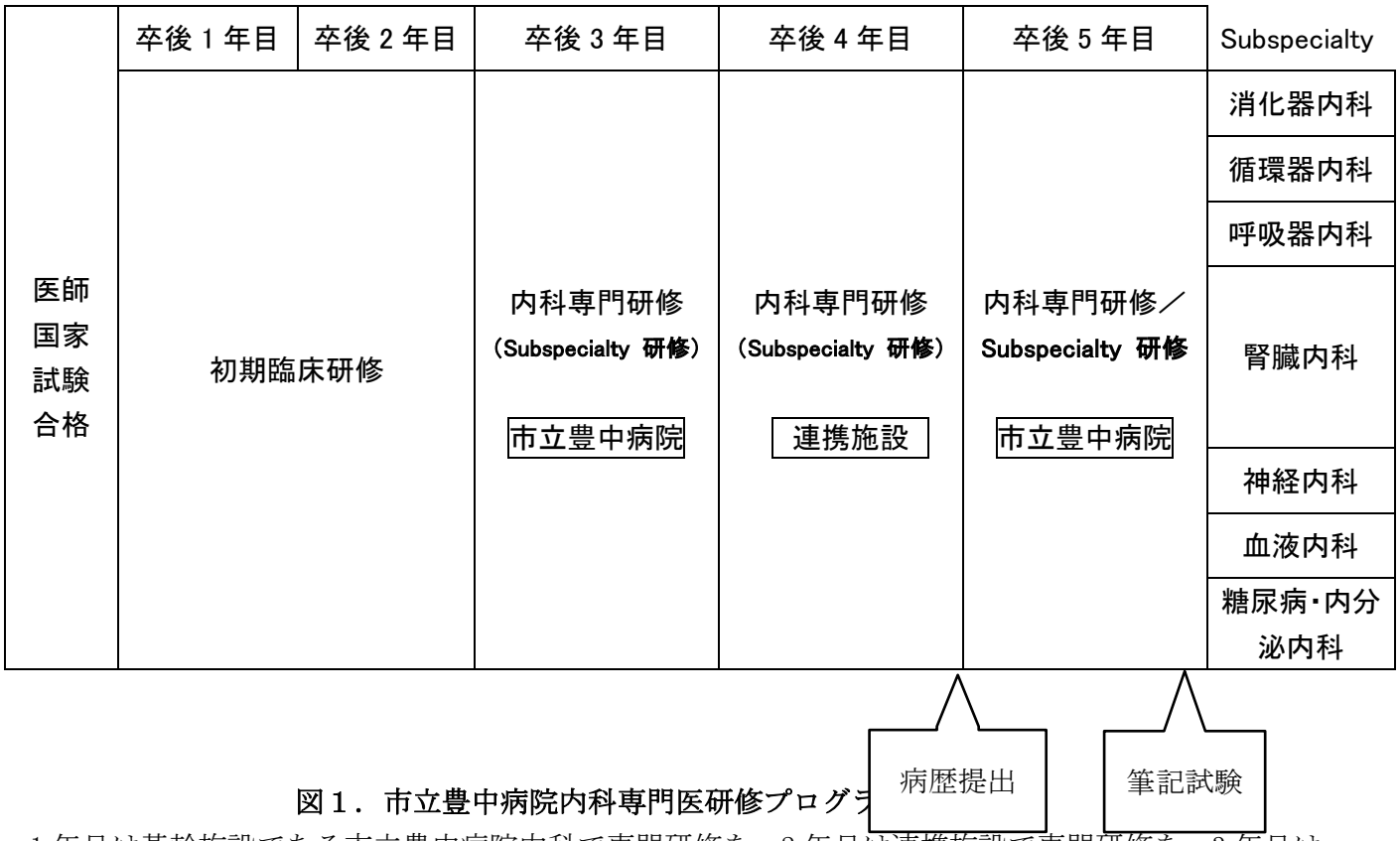



**図１．市立豊中病院内科専門医研修プログラ**

1 年目は基幹施設である市立豊中病院内科で専門研修を、2 年目は連携施設で専門研修を、3 年目は市立豊中病院で Subspecialty を含めた専門研修を行なうのを原則とします。希望があれば内科研修当初 2 年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修(Subspecialty 重点研修)の開始を考慮します。

**表１． 市立豊中病院内科専門研修施設群の各研修施設概要**

| | 病院 | 病床数 | 内科系病床数 | 内科系診療科数 | 内科指導医数 | 総合内科専門医数 | 内科剖検数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基幹病院 | 市立豊中病院 | 563 | 241 | 8 | 29 | 24 | 4 |
| 連携施設 | 市立池田病院 | 364 | 194 | 8 | 23 | 21 | 8 |
| 連携施設 | 箕面市立病院 | 317 | 150 | 5 | 9 | 10 | 2 |
| 連携施設 | 市立吹田市民病院 | 431 | 185 | 8 | 24 | 20 | 4 |
| 連携施設 | 大阪大学附属病院 | 1086 | 271 | 10 | 82 | 145 | 4 |
| 連携施設 | 大阪刀根山医療センター | 410 | 346 | 5 | 15 | 15 | 9 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 連携施設 | 済生会千里病院 | 327 | 109 | 7 | 3 | 14 | 4 |
| 連携施設 | 兵庫県立西宮総合医療センター | 400 | 159 | 10 | 25 | 16 | 3 |
| 連携施設 | 川崎病院 | 278 | 170 | 6 | 16 | 18 | 2 |
| 連携施設 | 市立伊丹病院 | 414 | 176 | 10 | 33 | 22 | 7 |
| 連携施設 | 関西労災病院 | 642 | 223 | 5 | 13 | 18 | 6 |
| 連携施設 | 大阪急性期総合医療センター | 865 | 272 | 9 | 31 | 32 | 10 |
| 連携施設 | 近畿中央呼吸器センター | 276 | 276 | 6 | 11 | 21 | 2 |
| 連携施設 | 大阪はびきの医療センター | 405 | 154 | 7 | 5 | 10 | 2 |
| 連携施設 | 市立芦屋病院 | 199 | 122 | 10 | 14 | 8 | 1 |
| 連携施設 | 西宮市立中央病院 | 257 | 81 | 5 | 17 | 10 | 2 |
| 連携施設 | 国立病院機構大阪医療センター | 605 | 267 | 9 | 42 | 29 | 10 |
| 連携施設 | 大阪警察病院 | 650 | 271 | 8 | 19 | 25 | 5 |
| 連携施設 | 日本生命病院 | 350 | 144 | 7 | 14 | 17 | 7 |
| 連携施設 | りんくう総合医療センター | 388 | 123 | 8 | 12 | 15 | 10 |
| 連携施設 | 大阪労災病院 | 678 | 205 | 6 | 16 | 26 | 6 |
| 連携施設 | 兵庫医科大学病院 | 897 | 283 | 10 | 44 | 66 | 9 |

表２．　各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

| 病院 | 総合内科 | 消化器 | 循環器 | 内分泌 | 代謝 | 腎臓 | 呼吸器 | 血液 | 神経 | アレルギー | 膠原病 | 感染症 | 救急 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 市立豊中病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 市立池田病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ |
| 箕面市立病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ | △ | × | ○ | ○ |
| 市立吹田市民病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 大阪大学附属病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ |
| 大阪刀根山医療センター | × | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ | × | × | × | × |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 済生会千里病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | × | × | ○ | ○ | × | ○ |
| 兵庫県立西宮総合医療センター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 川崎病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | △ | ○ | ○ |
| 市立伊丹病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 関西労災病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 大阪急性期総合医療センター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 近畿中央呼吸器センター | △ | × | × | × | × | × | ○ | × | × | △ | △ | ○ | △ |
| 大阪はびきの医療センター | △ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 市立芦屋病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | △ | × | × | ○ | ○ |
| 西宮市立中央病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 国立病院機構大阪医療センター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ | ○ | ○ |
| 大阪警察病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 日本生命病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| りんくう総合医療センター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | △ | △ | △ | ○ | ○ |
| 大阪労災病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | × | ○ | △ | △ | ○ | ○ |
| 兵庫医科大学病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価しました。　＜○研修できる：疾患充足度 50%以上。△時に経験できる：疾患充足度 50%未満、×ほとんど経験できない：疾患充足度 0%＞

## 専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．市立豊中病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府豊能地域の医療機関を中心に構成されています．

市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能である大阪大学医学部付属病院，兵庫医科大学病院、専門病院である国立病院機構大阪刀根山医療センター，近畿中央呼吸器センター、地域基幹病院である市立池田病院，箕面市立病院，市立吹田市民病院，済生会千里病院，兵庫県立西宮総合医療センター，川崎病院，市立伊丹病院，関西労災病院，大阪急性期総合医療センター，大阪はびきの医療センター，市立芦屋病院，西宮市立中央病

院，国立病院機構大阪医療センター，大阪警察病院，日本生命病院，りんくう総合医療センター、大阪労災病院、で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.

地域基幹病院では，市立豊中病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

## 専門研修施設（連携施設）の選択

・専門研修 1 年目と 2 年目終了前に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します.

・1 年間は連携施設で研修し、これは研修 2 年目に行うのを原則とします（図 1）.

・

## 専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

大阪府豊能医療圏およびその近隣にある施設から構成しています．いずれも大阪府北部または、兵庫県南西部に位置し、交通の利便性はよく移動はすみやかに行なえ、連携に支障をきたす可能性はありません。

## 各施設概要（詳細）

### 1）専門研修基幹施設

市立豊中病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります.<br>･豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています.<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります.<br>･ハラスメント委員会が病院内に整備されています.<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.<br>･敷地内に院内保育所があり，利用可能です. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ･指導医は 29 名在籍しています（2026 年 4 月 1 日現在）.<br>･内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.<br>･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します.<br>･医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、北摂血液疾患懇話会、北摂内視鏡研究会、大阪腎疾患研究会、大阪大学内分泌・代謝研究会、豊中糖尿病研究会、豊中胃内視鏡勉強会、はーと会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.<br>･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます.<br>･専門研修に必要な剖検（2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体、2023 年度 7 体、2024 年度 8 体、2025 年度 4 体）を行っています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ･臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターを整備しています.<br>･倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.<br>･治験審査委員会を設置し，定期的に治験審査委員会を開催しています.<br>･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています（2025 年度実績 8 演題）。 |
| 指導責任者 | 小杉　智（内科主任部長、血液内科主任部長）<br>【内科専攻医へのメッセージ】 |

| | |
|---|---|
| | 市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.<br>主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります. |
| 指導医数<br>（常勤内科医）<br>2025 年 4 月 1 日現在 | 日本内科学会指導医 28 名，日本内科学会総合内科専門医 23 名<br>日本専門医機構認定（新）内科専門医 9 名<br>日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本肝臓病学会専門医 5 名<br>日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 3 名，<br>日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名，<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本内視鏡学会専門医 5 名 |
| 外来・入院患者数<br>（内科系） | 外来延患者数　109,974 名/年（2025 年度）<br>入院件数　87,809 件/年（2025 年度） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます. |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本腎臓学会認定教育施設<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本脳卒中学会研修教育施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設など |

## 2) 専門研修連携施設

市立池田病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準24】<br>1)専攻医の環境 | ・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です.<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境、Ｗｉ-Ｆｉ環境があります.<br>・池田市非常勤医師として労務環境が保障されています.<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります.<br>・ハラスメント対策委員会が池田市役所に整備されています.<br>・女性専攻医向けの安全な、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています.<br>・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です. |
| 認定基準<br>【整備基準24】<br>2)専門研修プログラムの環境 | 日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。（2026 年 4 月現在）<br>･内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。<br>･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績計 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回、2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.<br>･地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. |
| 認定基準<br>【整備基準24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています. |
| 認定基準<br>【整備基準24】<br>4)学術活動の環境 | ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表（2021年度実績7演題、2022年度実績11演題）をしています. |
| 指導責任者 | 石田　永(1名)<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>市立池田病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い,GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. |
| 指導医数（常勤） | 日本内科学会指導医23名､日本内科学会総合内科専門医21名,日本消化器病学会消化器専門医9名，日本肝臓学会肝臓専門医6名、日本循環器学会循環器専門医4名､日本内分泌学会内分泌専門医3名､日本糖尿病学会糖尿病専門医3名,日本腎臓学会腎臓専門医3名，日本呼吸器学会呼吸器専門医5名，日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医3名ほか |
| 外来・入院<br>患者数(内科系) | 外来延患者数　343人/日　新入院患者数410人/月　（2025年度） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある15領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます. |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 地域医療支援病院<br>厚生労働省臨床研修指定病院（医科・歯科）<br>大阪府がん診療拠点病院<br>日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver.2.0）<br>卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院<br>日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化管学会胃腸科指導施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設<br>日本炎症性腸疾患学会指導施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本胆道学会認定指導医制度指導施設<br>日本膵臓学会認定指導医制度指導施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本血液学会研修認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本透析医学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本臨床神経生理学会認定施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本臨床細胞学会施設<br>日本アレルギー学会認定準教育施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本栄養治療学会 NST（栄養サポートチーム）稼動施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設 |

箕面市立病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>1) 専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>･常勤職員として労務環境が保障されています。<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部経営人事室）があります。<br>･ハラスメント委員会が整備されています。<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>2) 専門研修プログラムの環境 | 指導医は 9 名在籍しています。<br>･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>･医療倫理、医療安全、感染対策講習会等を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回［当院 1 回、他院 4 回］）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会、研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24] | ･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 |

| | |
|---|---|
| 3）診療経験の環境 | ･専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 体、2024 年度実績 0 体、2023 年度実績 2 体、2022 年度実績 2 体、2021 年度実績 3 体、2020 年度実績 6 体、2019 年度実績 12 体、2018 年度実績 12 体、2017 年度実績 8 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>［整備基準 24］<br>4）学術活動の環境 | ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2025 年度実績 4 回)。<br>･治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。<br>･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 森谷　真之<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>箕面市立病院は、豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院および、豊能医療圏および阪神地域の医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 |
| 指導医数（常勤） | 日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本肥満学会肥満症専門医 1 名、日本専門医機構認定内科専門医 4 名 |
| 外来、入院患者数（内科系） | 外来延患者数 40,061 名/年（2025 年度）<br>入院延患者数名 34,015/年（2025 年度） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術、技能 | 技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療、診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本循環器学会循環器専門医研修施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本血液学会血液研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働認定施設<br>など |

市立吹田市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準23】<br>１）専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>･医師（非常勤職員）として労務環境が保障されています。<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室職員、公認心理師）があります。<br>･ハラスメントに適切に対処するための部署（ハラスメント窓口担当）があります。<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準23】<br>２)専門研修プログラムの環境 | ･指導医は24名在籍しています。<br>･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（総合内科専門医かつ指導医）、プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。<br>･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･CPC を定期的に開催（2025年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準23/31】<br>３）診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。<br>･70疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）。<br>･専門研修に必要な剖検（2023年度4体、2024年度4体、2025年度4体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準23】<br>４）学術活動の環境 | ･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。<br>･倫理委員会を設置し、定期的に開催（年4回）しています。<br>･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（月１回）しています。<br>･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 火伏俊之<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>市立吹田市民病院は、大阪県豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。<br>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 |
| 指導医数<br>（内科系常勤医） | 日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医20名<br>日本消化器病学会消化器専門医8名、日本肝臓病学会専門医7名 |

| | |
|---|---|
| | 日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医3名、<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医3名、<br>日本神経学会神経内科専門医5名、日本アレルギー学会専門医（内科）1名、日本リウマチ学会リウマチ専門医2名<br>ほか |
| 外来・入院患者数 | 延べ外来患者16,534名（1か月平均）　新入院患者871名（1か月平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術･技能 | 技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療、診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本超音波学会認定超音波専門医研修施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本臨床細胞学会認定施設<br>日本がん治療認定機構認定研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>大阪府癌診療拠点病院指定書<br>臨床研修認定病院<br>など |

大阪大学医学部附属病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1）専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>･研修に必要な図書館とインターネット環境があります。<br>･非常勤医員として労務環境が保障されています。<br>･メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。<br>･ハランスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>･病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2） 専門研修プログラムの環境 | ・指導医は 82 名在籍しています(2025 年度)。<br>・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。<br>・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 |

| | |
|---|---|
| | ·医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>·CPC（内科系） を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>3）診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4）学術活動の環境 | ·臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。<br>・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | プログラム統括責任者　山本浩一　副プログラム統括責任者　保仙直毅<br>研修委員会委員長　山本浩一 |
| 指導医数（常勤） | (2025 年度)<br>日本内科学会指導医 82 名<br>総合内科専門医 145 名<br>内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。<br>日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医<br>日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医<br>日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医<br>日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科）<br>日本リウマチ学会専門医、日本老年医学会老年科専門医、日本感染症学会専門医<br>JMECC ディレクター　0 名、JMECC インストラクター　8 名 |
| 外来・入院 患者数<br>（内科系） | 2025 年度実績　外来患者延べ数　196,432 名、退院患者数　6,680 名<br>（病院許可病床数　一般　1034 床、精神　52 床）<br>2025 年度　入院患者延べ数　99,135 名　（循環器内科　17,237 名、腎臓内科　6,325 名、消化器内科　18,867 名、糖尿病・内分泌・代謝内科　6,285 名、呼吸器内科　11,910 名、免疫内科　8,239 名、血液・腫瘍内科　13,614 名、老年・高血圧内科　4,440 名、脳神経内科　11,277 名、感染症内科　941 名） |
| 経験できる疾患群 | 研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することがで |

| | |
|---|---|
| | きます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本循環器学会専門医研修施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本内分泌学会内分泌科認定教育施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本透析医学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本血液学会研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本老年医学会認定教育施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本感染症学会認定研修施設 |

国立病院機構大阪刀根山医療センター

| | |
|---|---|
| **認定基準**<br>**[整備基準 24]**<br>**1)専攻医の環境** | **・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。**<br>**・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。**<br>**・非常勤医師として労務環境が保障されています。**<br>**・メンタルストレスに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。**<br>**・ハラスメントに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。**<br>**・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。**<br>**・敷地内に院内保育所があり、利用可能です（定期利用のみ）。** |

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>2)専門研修プログラムの環境 | 指導医は 14 名在籍しています(2026 年 4 月現在)<br>･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>･医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2025 年度実績 12 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･CPC を定期的に開催(2025 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･地域参加型のカンファレンス(病病、病診連携カンファレンス)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 2 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(呼吸器 脳神経)。<br>専門研修に必要な剖検(2025 年度 6 体)を行っています。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>4)学術活動の環境 | ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2025 年度実績 2 演題)をしています。 |
| 指導責任者 | **松村 剛** (内科学会指導医/総合内科専門医)<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>国立病院機構大阪刀根山医療センターは、豊中市にある呼吸器疾患と神経疾患の専門病院であり、両領域の基幹施設です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。専攻医の研修目的に合わせたプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 |
| 指導医数(常勤) | 日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、<br>日本神経学会神経内科専門医 16 名 |
| 外来、入院 患者数<br>(内科系) | 外来患者 53,697 名(平均延数 4,475 名／月)<br>新入院患者 2,928 名(平均数 244／月)<br>(2025 年度) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。(詳細はお問い合わせください) |
| 経験できる技術。技能 | 技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療。診療連携 | 急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、慢性疾患の診療を通して病診。病病連携なども経験できます。 |

| | |
|---|---|
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設　など |

## 済生会千里病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります.<br>･常勤医師として労務環境が保障されています.<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（職員のメンタル管理の仕事を中心とする公認心理士 3 名が配属）があります.<br>･ハラスメント委員会が院内に設置されています.<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように，女医休憩室，女医当直室、更衣室，シャワー室が整備されています.<br>･管理棟内に職員家族用の院内保育所があり，利用可能です. |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ･指導医は 27 名在籍しています.<br>･内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設の研修委員会との連携を図り専攻医の研修を管理します.<br>･医療倫理研修会・医療安全研修会・感染対策研修会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･地域参加型のカンファレンス（千里診療連携セミナー）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･日本専門医機構による施設実地調査に専攻医研修センターが対応します. |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野（総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．また、70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます.<br>･専門研修に必要な剖検（2025 年度 4 体）を行っています. |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ･臨床研究に必要な図書室を整備しています．医学中央雑誌の web 版（医中誌 web）、「メディカルオンライン」が利用できます。英語の文献は近畿病院図書室協議会の KITOcat のシステムを利用して文献を取り寄せることが可能です。その他、英語で「UpToDate」が、日本語で「今日の臨床サポート」が使用できます。<br>･外部委員も参加する倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.<br>･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています.<br>･日本内科学会講演会あるいは同地方会に継続して学会発表をしています. |
| 指導責任者 | プログラム統括責任者：西尾　まゆ<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>　当院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とも連携して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 3 名，日本内科学会総合内科指導医 2 名，日本消化器病学会指導医 1 名，日本消化器内視鏡学会指導医 1 名，日本消化管学会指導医 1 名，　日本超音波 |

| | |
|---|---|
| | 医学会指導医 3 名, 日本脈管学会指導医 3 名, 日本高血圧学会指導医 1 名， 日本リウマチ学会指導医 3 名，日本糖尿病学会指導医 2 名，日本救急医学会救急科指導医 5 名，日本呼吸器学会指導医 3 名 |
| 外来・入院患者数 | 新外来患者数 1900 名（1 ヶ月平均）（2025 年度）<br>新入院患者数 757 名　（1 ヶ月平均　（2025 年度） |
| 経験できる疾患群 | 当院において研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域にある 56 疾患群の症例を幅広く経験することができます. |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設 | 日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導連携施設<br>日本肝臓学会特別連携施設<br>日本消化管学会胃腸科指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本脈管学会認定研修施設<br>日本高血圧学会高血圧認定研修施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本救急医学会指導医指定施設<br>日本集中治療医学会専門医研修施設 |

## 兵庫県立西宮総合医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.<br>･研修に必要な図書室と最新の生成 AI・Wi-Fi インターネット環境があります.<br>･地方公務員法第 22 条の 2 第 1 項第 2 号の規定に基づく会計年度任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています．また公舎等の利用が可能です.<br>･当センターに常勤の臨床心理士が職員のメンタルヘルス相談を随時行っています．そしてメンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります．希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。<br>･院内にハラスメント委員会を設置しました.<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.<br>･敷地内に院内保育所があり，18 時まで保育時間を延長する延長保育を行っています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログ | ･指導医が 52 名在籍しています（下記）.<br>･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. |

| | |
|---|---|
| ラムの環境 | ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，ZOOM 配信により専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回・2 体分，2021 年度実施 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 69 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，血液，神経，アレルギー，膠原病，呼吸器，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.<br>・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体，2021 年度 5 体，2022 年度実施 5 体，2023 年度実施 1 体，2024 年度実施 3 体，2025 年度実施 0 体）を行っています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 9 演題、2024 年度実績 4 演題、2025 年度実績 8 演題）をしています.<br>・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています.<br>·治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています.<br>・臨床研究センターを設置しています.<br>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています.<br>・臨床研修センター（前期・後期）を設置しています. |
| 指導責任者 | 楢原　啓之（ならはら　ひろゆき）<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>兵庫県立西宮総合医療センター（2026 年 7 月兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院が合併移転）は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪急電車今津線阪神国道駅から徒歩 1 分にあります．兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、診療科間の垣根が低いチーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています．兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部付属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています.<br>・本プログラムは，初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して，質の高い内科専門医を育成するものです．医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです. |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 52 名，日本内科学会総合内科専門医 29 名・内科専門医 4 名，日本消化器病学会消化器病専門医 14 名，日本消化器内視鏡学会専門医 12 名，日本肝臓学会肝臓専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分 |

| | |
|---|---|
| | 泌学会専門医 4 名，日本腎臓学会腎臓専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会専門医 4 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名，日本神経学会認定神経内科専門医 3 名日本アレルギー学会専門医 2 名，日本血液学会認定血液専門医 1 名，ほか |
| 外来・入院患者数 | 兵庫県立西宮病院 : 外来患者 12,312 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9,695 名（1 ヶ月平均延数）<br>兵庫県立西宮病院：外来患者 55,297 名/年　入院患者 48,857 名/年<br>西宮市立中央病院：外来患者 26,001 名/年　入院患者 20,440 名/年 |
| 経験できる疾患群 | 軟部肉腫等のきわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます. |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．毎年 JMECC 講習会を主催します．特に緊急心臓カテーテル検査・PCI，化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます．2026 年 7 月には屋上にヘリポートを設置してドクターヘリを運用します．また急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定教育施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本臨床腫瘍学会特別連携施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本血液学会血液研修施設<br>日本腎臓学会認定研修施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本救急医学会指導医指定施設<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設<br>日本胆道学会認定指導施設<br>日本禁煙学会認定教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本臨床腎移植学会認定研修施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>など |

医療法人川崎病院

| | |
|---|---|
| 認定基準 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 |

| | |
|---|---|
| 【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>·医療法人川崎病院非常勤医師として労務環境が保障されています。<br>·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。<br>·各種ハラスメント相談窓口が医療法人川崎病院に整備されています。<br>·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ·指導医は 16 名在籍しています.<br>·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（総合診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.<br>·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修室を設置します.<br>·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 6 回　適宜 e-learning 実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·CPC を定期的に開催（2025 年実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·地域参加型のカンファレンス（院内学術集会，院内感染対策講習会，地域連携セミナー，兵庫区循環器研究会，兵庫区消化器連携セミナー，心不全カンファレンスなど(2025 年度実績 12 回)を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）.<br>·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）.<br>·専門研修に必要な剖検を行っています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ·臨床研究に必要な図書室，インターネット（Wi-fi），統計ソフトウェアなどを整備しています.<br>·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.<br>·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています. |
| 指導責任者 | 飯田正人<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>医療法人川崎病院は、兵庫県神戸医療圏の中心的な急性期病院であり、神戸医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 |

| | |
|---|---|
| | 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 16 名<br>日本内科学会総合内科専門医 18 名<br>日本消化器病学会消化器専門医 3 名<br>日本呼吸器学会専門医 2 名<br>日本循環器学会循環器専門医 10 名<br>日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名<br>日本腎臓学会腎臓専門医 1 名<br>日本透析医学会専門医 1 名<br>日本血液学会血液専門医 1 名<br>日本肝臓学会肝臓専門医 2 名，ほか |
| 外来・入院患者数 | 延べ外来患者 7,150 名(1 か月平均)　入院患者 6,712 名(1 か月平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本消化管学会暫定指導施設<br>日本カプセル内視鏡学会指導施設<br>日本大腸肛門学会関連施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本血液学会認定医研修施設<br>日本透析医学会教育関連施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本肥満学会認定肥満症専門病院<br>日本動脈硬化学会専門医教育病院<br>日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設　など |

市立伊丹病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 |

| | |
|---|---|
| 1)専攻医の環境 | ·伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。<br>·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事研修担当）があります。<br>·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。<br>·敷地内に院内保育所があり，利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ·指導医は 33 名在籍しています。<br>·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。<br>·医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 5 回，2020 年度実績 9 回，2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 5 回、2023 年度 9 回実績）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>·CPC を定期的に開催（2019 年度実績 12 回，2020 年度実績 9 回，2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 8 回、2023 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>·地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム，伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム，伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム，伊丹市医師会消化器勉強会。外科医会合同講演会，伊丹市医師会内科医会講演会，登竜門カンファレンス，神戸 GM カンファレンスなど）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年 9 月に第 1 回を開催，2017 年 5 月に第 2 回，2018 年 5 月に第 3 回を開催，2019 年 5 月に第 4 回を開催，2022 年 10 月に第 5 回を開催、2023 年 6 月に第 6 回を開催、2024 年 10 月に第 7 回を開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。<br>·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 58 以上の疾患群）について研修できます（上記）。<br>·専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 10 体，2019 年度 13 体、2020 年度 8 体，2021 年度 9 体、2022 年度 12 体、2023 年度 6 体、2024 年度 9 体、2025 年度 7 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。<br>·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019 年度実績 9 回，2020 年度実績 3 回，2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 7 回、2023 年度実績 8 回）しています。<br>·治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2019 年度実績 11 回，2020 年度実績 8 回，2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 11 回、2023 年度実績 11 回）しています。 |

| | |
|---|---|
| | ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題，2020 年度実績 3 演題，2021 年度実績 5 演題、2022 年度実績 3 演題、2023 年度実績 7 演題、2024 年度実績 3 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 村山洋子<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>市立伊丹病院は,兵庫県阪神医療圏の中心的な急性期病院であり,阪神医療圏。近隣医療圏にある連携施設。特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。<br>主担当医として，入院から退院〈初診。入院～退院。通院〉まで経時的に，診断。治療の流れを通じて，社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 33 名，日本内科学会総合内科専門医 22 名,<br>日本消化器病学会消化器指導医 4 名,日本消化器病学会消化器専門医 7 名,<br>日本消化器内視鏡学会指導医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名,<br>日本肝臓学会指導医 1 名，日本肝臓学会専門医 4 名,<br>日本循環器学会循環器専門医 6 名,<br>日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名,<br>日本血液学会血液指導医 3 名,日本血液学会血液専門医 4 名,<br>日本糖尿病学会指導医 1 名,日本糖尿病学会専門医 4 名,<br>日本アレルギー学会指導医（内科）1 名，日本リウマチ学会指導医 1 名,<br>日本腎臓病学会専門医 1 名,日本老年医学会指導医 2 名,<br>日本臨床腫瘍学会指導医 1 名　日本高血圧学会　指導医 1 名<br>日本認知症学会　指導医 2 名　ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 17,624 名（1 ヶ月平均）　新入院患者 904 名（1 ヶ月平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院　臨床研修病院（基幹型）<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設<br>日本消化管学会胃腸科指導施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本膵臓学会認定施設<br>日本呼吸器学会専門医制度認定施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本高血圧学会認定施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本老年医学会認定施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本リウマチ学会認定教育施設<br>日本循環器学会専門医制度研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本超音波医学会専門医研修施設<br>日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設日本老年医学会認定施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本認知症学会専門医教育施設<br>など |

関西労災病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります.<br>･関西労災病院常勤医師として労務環境が保障されています.<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります.<br>･ハラスメント防止対策委員会が整備されています.<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.<br>･病院近傍に院内保育所があり，利用可能です. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ･指導医は 31 名在籍しています.<br>･内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.<br>･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します.<br>･医療倫理（2024 年度実績 1 回）・医療安全（2024 年度実績 2 回）・感染対策講習会（2024 年度実績 3 回）を開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･地域参加型のカンファレンス（感染対策地域連携カンファレンス； 2024 年度実績 4 回，阪神がんカンファレンス； 2024 年度実績頭頚部がん 1 回、胃がん・食道がん 1 回、大腸がん 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します. |

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）.<br>･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 67 以上の疾患群）について研修できます（上記）.<br>･専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 6 体、2023 年度実績 7 体、2022 年度実績 10 体、2021 年度実績 12 体、2020 年度実績 10 体、2019 年度実績 10 体，2018 年度実績 12 体，2017 年度実績 13 体）を行っています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ･臨床研究に必要な図書室などを整備しています.<br>･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 10 回）しています.<br>･治験事務局を設置し，月 1 回臨床治験倫理審査委員会を開催（2024 年度実績 10 回）しています.<br>･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 3 演題）をしています. |
| 指導責任者 | 和泉　雅章<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>関西労災病院は，兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であり，阪神北医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.<br>主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります. |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 3 名，日本内科学会総合内科専門医 18 名<br>日本消化器病学会消化器指導医 10 名，<br>日本消化器病学会消化器専門医 16 名，<br>日本循環器学会循環器専門医 7 名，<br>日本糖尿病学会指導医 2 名，日本糖尿病学会専門医 2 名，<br>日本腎臓学会指導医 1 名，日本腎臓学会専門医 3 名，<br>日本透析医学会指導医 1 名，日本透析医学会専門医 2 名，<br>日本消化器内視鏡学会指導医 5 名，日本消化器内視鏡学会専門医 13 名，<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名，<br>日本臨床腫瘍学会指導医 2 名，日本臨床腫瘍学会専門医 2 名，ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 24,038 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,462 名（1 ヶ月平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます. |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本腎臓学会研修施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>など |

大阪急性期・総合医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>1) 専攻医の環境 | •初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>•研修に必要な図書館とインターネット環境があります。<br>•非常勤医員として労務環境が保障されています。<br>•メンタルストレスに適切に対処する施設 (大阪府こころの健康総合センター)が、病院と公園をはさんで隣にあります。<br>•ハランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。<br>•女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>•病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>2) 専門研修プログラムの環境 | •JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。<br>•指導医は 2026 年 4 月の時点で 31 名在籍しています。<br>•専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>•医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催 (2025 年度実績 医療安全 12 回、感染対策 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>•研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>•CPC を定期的に開催 (2025 年度実績：7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>•地域参加型カンファレンスを各診療科にて年２回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>3) 診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>4) 学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年度実績 9 演題)をしています。 |
| 指導責任者 | 大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者　林　晃正 |

| | |
|---|---|
| 指導医数（常勤） | 日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 32 名 |
| 外来・入院 患者数 | 2025 年実績：外来患者 1,167 名 (平均/日)、 入院患者 20,666 名/年 |
| 経験できる疾患群 | 専攻医登録評価システム (J-OSLER)にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24 時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。 |
| 経験できる<br>技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域<br>医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。 |

| | |
|---|---|
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定教育病院<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本不整脈学会専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本透析医学会認定医認定施設<br>日本高血圧学会専門医制度認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本アレルギー学会専門医教育施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本神経学会専門医教育施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設<br>日本内科学会専門医制度研修施設<br>日本感染症学会研修認定施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>心血管インターベンション学会研修施設<br>植え込み型除細動器移植・交換術認定施設<br>両室ペースメーカー移植術認定施設<br>日本胆道学会指導施設<br>経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本超音波医学会超音波専門医研修施設<br>日本血液学会研修教育施設<br>日本脳神経血管内治療学会研修施設<br>日本腎デナベーション実施施設 |

近畿中央呼吸器センター

| | |
|---|---|
| 1) 専攻医の環境 | 初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。<br>･研修に必要なインターネット環境（電子ジャーナル閲覧可）があります。<br>･非常勤医師として労務環境が保障されています。<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医、管理課労務担当）があります。<br>･ハラスメント防止に関する規程が整備されており、相談窓口があります。<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 |
| 2) 専門研修プログラムの環境 | ･内科指導医が 11 名在籍しています（下記）.<br>･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.<br>･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. |

| | |
|---|---|
| | ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，呼吸器および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.<br>・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 回）を行っています. |
| 4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2025 年度実績 1 演題）をしています.<br>·臨床研究審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 9 回）しています.<br>·治験管理室を設置し，定期的に治験受託研究審査委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています.<br>·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています. |
| 指導責任者 | 蓑毛　祥次郎<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>近畿中央呼吸器センターは、全国でも屈指の呼吸器専門病院です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。主に呼吸器疾患の診断、治療を含めた全人医療のできる内科専門医の育成を目指します。我々と一緒に学びませんか？熱意と協調性のある方、大歓迎です。 |
| 指導医など（常勤医）<br>（2026 年 4 月現在） | 日本呼吸器学会呼吸器指導医　11 人　呼吸器学会呼吸器専門医 19 人<br>日本感染症学会感染症指導医　2 人　日本感染症学会感染症専門医 2 人<br>日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医 3 人<br>日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 人<br>がん治療認定機構がん治療指導医　1 人<br>がん治療認定医機構がん治療認定医 6 人　日本アレルギー学会専門医 3 人<br>日本呼吸器内視鏡学会指導医 3 人　日本呼吸器内視鏡学会専門医 10 人<br>日本内科学会総合内科指導医 11 人　日本内科学会総合内科専門医 21 人<br>日本緩和医療学会緩和医療専門医　2 人<br>日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医 2 人<br>日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医 2 人<br>日本化学療法学会抗菌化学療法認定医・指導医 1 人 |
| 外来・入院患者数（年間） | 外来患者 4,027 名（平均延数／月）　入院患者 390 名（平均数／月）（2025 年度実績） |
| 経験できる疾患群 | 1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，呼吸器疾患、感染症の内科治療を経験でき，付随するオンコロジーエマージェンシー，緩和ケア治療，終末期医療等についても経験できます.<br>2）研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，幅広く経験することが可能です. |
| 経験できる技術・技能 | 1）日本屈指の呼吸器専門病院において，呼吸器疾患の診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，など，幅広い呼吸器診療を経験できます.<br>2）技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症 |

| | |
|---|---|
| | 例に基づきながら幅広く経験することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます. |
| 学会認定施設（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育特殊施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本病理学会 研修認定施設<br>日本臨床細胞学会 認定施設など |

大阪はびきの医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>1) 専攻医の環境 | ·初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。<br>•研修に必要な図書館とインターネット環境があります。<br>•非常勤医員として労務環境が保障されています。<br>•メンタルストレスに適切に対処する制度が院内にあります。（こころの健康相談室（毎月第 1 月曜日）<br>•女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>•院内に託児所があり、病児保育（定員 1 名）も含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>2) 専門研修プログラムの環境 | •指導医は 2026 年 4 月の時点で 10 名在籍しています。<br>•専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>•医療倫理､医療安全､感染対策の各講習会を定期的に開催 (2025 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 16 回、感染対策 9 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>•研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加できるよう、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>•CPC を定期的に開催 (2025 年度実績：2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>•地域参加型のカンファレンスを定期的に開催準備中です。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>3) 診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>4) 学術活動の環 | •臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターを整備しています.<br>•治験審査委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています.<br>•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をし |

| | |
|---|---|
| 境 | ています。 |
| 指導責任者 | 大阪はびきの医療センター内科専門研修プログラム責任者　森下　裕<br>【内科専攻医へのメッセージ】大阪はびきの医療センターは、もともと、呼吸器、感染症、アレルギー疾患の専門病院であり、この領域において非常にレベルの高い研修が行えます。さらに現在、診療領域を広げて総合医療センターを目指して整備中です。呼吸器やアレルギー疾患の専門領域を目指す先生にとっては、豊富な専門症例が経験できます。また呼吸器疾患や結核・ COVID-19 などの感染症、アレルギー疾患は全ての診療領域の疾患と併存してきますので、どのサブスペシャリティーの領域へ進む先生にとっても将来、診療に役に立つ知識が得られます。当センターでの研修をお待ちしています。 |
| 指導医数（常勤） | 日本内科学会総合内科指導医 10 名（専門医 15 名）<br>日本呼吸器学会指導医 4 名（専門医 8 名）<br>日本アレルギー学会指導医 1 名（専門医 2 名）<br>日本呼吸器内視鏡学会指導医 0 名（専門医 2 名）<br>日本リウマチ学会指導医　2 名（専門医 2 名）<br>日本感染症学会指導医 1 名（専門医 1 名）<br>日本結核・非結核性抗酸菌症学会指導医 2 名（専門医 2 名）<br>日本糖尿病学会研修指導医 1 名(専門医 2 名）<br>日本内分泌学会内分泌代謝科指導医 1 名（専門医 2 名）<br>日本腎臓学会指導医 1 名（専門医　1　名）<br>日本透析医学会指導医（専門医 1 名） |
| 外来・入院 患者数 | 2025 年実績（内科系のみ）：外来患者 218 名 (平均/日)、　入院患者 3,050 名/年 |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 7 領域、30 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる<br>技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域<br>医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | WAO center of excellence<br>日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本呼吸器学会内科系外科系指導施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本循環器学会認定専門医研修関連施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓学会認定教育施設<br>日本透析医学会教育関連施設<br>日本病理学会登録施設 など |

市立芦屋病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。<br>･女性専攻医のための更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 |
| 認定基準<br>2)専門研修プログラムの環境 | ･指導医が 9 名在籍しています。（2025 年 4 月 1 日現在）<br>･医師臨床研修管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医にも受講を義務付けます。<br>･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、血液、神経、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 安見　正人　（血液・腫瘍内科）<br>【内科専攻医へのメッセージ】当院の血液・腫瘍内科では、血液疾患全般と、悪性腫瘍をチームで診療しています。いかなる疾患でも治療方針の決定にはバランス感覚を維持・進歩させることに重点を置き、臨床データだけでなく患者さんひとり一人の社会的環境も考慮しつつ診療し、かつ研修医指導にあたっています。さらに、化学療法と緩和医療とのベストミックスを目指した診療についても習得できる環境にあります。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医<br>日本血液学会指導医 2 名<br>日本内科学会総合内科指導医 2 名<br>日本消化器病学会指導医 2 名<br>日本カプセル内視鏡学会暫定指導医 1 名<br>日本消化管学会胃腸科指導医 2 名<br>日本消化器内視鏡学会指導医 2 名<br>日本神経学会指導医 2 名<br>日本糖尿病学会研修指導医 1 名<br>日本糖尿病協会療養指導医 1 名 |

| | |
|---|---|
| | 日本内分泌学会内分泌代謝科指導医 1 名<br>日本臨床腫瘍学会指導医 1 名<br>日本肝臓学会指導医 1 名<br>日本呼吸器学会指導医 1 名<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 1 名<br>日本胆道学会指導医 1 名<br>ほか |

西宮市立中央病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・西宮市立中央病院非常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。<br>・各種ハラスメント相談窓口（セクシュアル&パワーハラスメント対策委員会）が西宮市立中央病院に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ・指導医は 17 名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（リウマチ・膠原病内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修委員会（管理室）を設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2024 年実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（院内学術集会 : 西宮地域医療連携セミナー、院内感染対策講習会、南阪神肝疾患病診連携セミナー、西宮二次救急輪番循環器カンファレンスなど : 2024 年度実績 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（管理室）が対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 10 分野以上） で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検（2023 年度は実施なし、2024 年度 2 体）を行っています。 |

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室、インターネット（Wifi）、統計ソフトウェアなどを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 2 回）しています。<br>・治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています。 |
| 指導責任者 | 小川 弘之<br>【内科専攻医へのメッセージ】 西宮市立中央病院は、阪神医療圏の中心的な急性期病院であり、地域に根ざした第一線の病院でもあります。近隣医療圏、大阪医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師になられるよう、また学究的な医師となられるように指導させていただきます。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会総合内科専門医 10 名<br>日本消化器病学会消化器専門医 4 名<br>日本循環器学会循環器専門医 3 名<br>日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名<br>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名<br>日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名<br>日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 383 名（1 日平均）　入院患者 112 名（1 日平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設<br>日本リウマチ学会教育施設 |

国立病院機構大阪医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。<br>・ハラスメント委員会が院内に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医は 42 名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。<br>・医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務付けされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務付けます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。<br>・CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3) 診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4) 学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。<br>・倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 審査委員会（月 1 回）で審査しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 柴山浩彦<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 42 名<br>日本内科学会総合内科専門医 29 名　日本内科学会専門医（新制度）7 名<br>日本循環器学会専門医 12 名　日本消化器病学会専門医 14 名<br>日本肝臓学会専門医 9 名　日本呼吸器学会専門医 7 名<br>日本腎臓学会専門医 3 名　日本糖尿病学会専門医 5 名<br>日本内分泌学会専門医 3 名　日本血液学会専門医 5 名<br>日本神経学会専門医 7 名　日本アレルギー学会専門医 2 名<br>日本感染症学会専門医 3 名　日本消化器内視鏡学会専門医 11 名 |

| | |
|---|---|
| | 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名 |
| 外来・入院<br>患者数 | 外来患者　　年間240,696 名　　（1 ヶ月平均 20,058 人）<br>新入院患者 年間15,793 名 （1 ヶ月平均　1,316 人） |
| 経験できる<br>疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます |
| 経験できる<br>技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら<br>幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院　　日本神経学会準教育施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本消化器病学会認定施設　　日本肝臓学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設　　日本胆道学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設　　日本呼吸器内視鏡学会診療施設<br>日本腎臓学会研修施設　　日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設　　日本血液学会血液研修施設<br>日本脳卒中学会研修教育病院　　日本脳神経血管内治療学会研修施設<br>日本感染症学会研修施設　　日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設　　日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 |

大阪警察病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型，協力型研修指定病院です<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります<br>・常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課厚生係）があります<br>・ハラスメント窓口（人事課）が整備されています<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩コーナー，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています<br>・院内に病児保育室があり，利用可能です<br>・託児手当があり，利用可能です（子が 3 歳に達する迄） |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医は 20 名在籍しています(2026 年 4 月現在)<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）），副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修管理室を設置します<br>・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 16 回，2025 年度実績 16 回，2026 年度実績 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 13 回,2024 年度実績 13 回，2025 年 |

| | |
|---|---|
| | 度実績 9 回)し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕をあたえます<br>・地域参加型のカンファレンス(天王寺区医師会・病院合同講演会年 1 回，臨床医講習会年 4 回，各内科診療科地域連携講演会年 5 回前後，夕陽丘緩和ケア連絡会年 3-4 回など)を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度実績 1 回，2024 年度実績 1 回、2025 年度実績 1 回)を義務付け，そのための時間的余裕を与えます<br>・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門医研修管理室が対応します |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 56 以上の疾患群)について研修できます<br>・専門研修に必要な剖検(2023 年度実績 10 体，2024 年度実績 6 体，2025 年度実績 7 体)を行っています |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室，OA ルームなどを整備しています<br>・倫理委員会を設置し，定期的(2023 年度実績 12 回，2024 年度実績 12 回，2025 年度実績 12 回)に開催しています<br>・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催(2023 年度実績 11 回，2024 年度実績 11 回，2025 年度 回実績)しています<br>・日本内科学会講演会(および内科学会ことはじめ)あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2023 年度実績 5 題，2024 年度実績 5 題)をしています<br>・学会等への参加は出張扱いとし，出張費を支給しています(当院規定による) |
| 指導責任者 | 飯島　英樹<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>大阪警察病院は，大阪府大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり，二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.<br>地域医療における救急診療の要として，「断らない医療をモットー」に二次医療圏のみならず，大阪府下・近隣府県の救急疾患・急性期疾患の医療に応需しております.<br>内科専門医外来，ER・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて，初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を，また，高齢者医療，慢性期疾患，癌疾患などの継続的な診療など，多数の症例を経験することができます．一方，入院症例においては，入院から退院(初診・入院～退院・通院)経時的に，診断・治療の流れを経験することで，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざし |

| | |
|---|---|
| | ていただけます. |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会総合内科専門医 35 名<br>日本消化器病学会消化器専門医 16 名，日本肝臓学会肝臓専門医 9 名，<br>日本循環器学会循環器専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 5 名，<br>日本内分泌学会専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，<br>日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名，<br>日本救急医学会救急科専門医 6 名　ほか （2026 年 4 月現在） |
| 外来・入院患者数<br>(2025 年度実績) | (病院全体)外来患者 34,639 名(1 ヶ月平均)，入院患者 17,934 名(1 ヶ月平均)<br>(うち内科系)外来患者 21，803 名(1 ヶ月平均)，入院患者 12，483 名(1 ヶ月平均)) |
| 経験できる疾患群 | きわめてまれな疾患をのぞいて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます |
| 経験できる技術・技能 | ・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診，病病連携なども経験できます |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会　専門医制度認定教育病院<br>日本感染症学会　認定研修施設<br>日本肝臓学会　認定医制度認定施設<br>日本がん治療認定医機構　認定研修施設<br>日本救急医学会　専門医指定施設<br>日本呼吸器学会　認定施設<br>日本循環器学会　専門医認定研修施設<br>日本消化器内視鏡学会　専門医制度認定指導施設<br>日本消化器病学会　認定施設<br>日本神経学会　専門医制度認定準教育施設<br>日本糖尿病学会　認定教育施設<br>日本内分泌学会　内分泌代謝科認定教育施設<br>日本臨床腫瘍学会　認定研修施設<br>など |

日本生命病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>1)専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。<br>・ハラスメント相談窓口が設置されています。<br>・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シ |

| | |
|---|---|
| | ャワー室、当直室が整備されています。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>2)専門研修プログラムの環境 | ・指導医は 20 名在籍しています。（2026 年 4 月現在）<br>・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>3）診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検を行っています。 |
| 認定基準<br>[整備基準 24]<br>4）学術活動の環境 | ・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 橋本　久仁彦<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 29 診療科・10 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。 |
| 指導医数（常勤） | 日本内科学会指導医 20 名、<br>日本内科学会総合内科専門医 20 名、<br>日本消化器病学会消化器専門医 7 名、<br>日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、<br>日本肝臓学会専門医 4 名、<br>日本循環器学会専門医 5 名、<br>日本高血圧学会専門医 1 名、<br>日本糖尿病学会専門医 3 名、<br>日本内分泌学会専門医 3 名、<br>日本リウマチ学会専門医 2 名、<br>日本呼吸器学会専門医 5 名、<br>日本血液学会血液専門医 3 名、<br>日本神経学会専門医 1 名、 |

| | |
|---|---|
| | 日本腎臓学会専門医 2 名、<br>日本透析医学会専門医 1 名、<br>日本老年学会老年病専門医 1 名<br>日本救急医学会救急科専門医 1 名 |
| 外来・入院 患者数（内科系） | 外来患者 384 名（一日平均）　入院患者 146 名（一日平均）（2025 年度） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本循環器学会専門医研修施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本膵臓学会認定指導施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本超音波医学会専門医制度研修施設<br>日本胆道学会指導施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本アレルギー学会専門医準教育施設<br>日本血液学会専門研修認定施設<br>日本神経学会専門医制度准教育施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本透析医学会認定制度認定施設<br>日本臨床細胞学会認定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科）<br>日本認知症学会専門医制度教育施設 |

## りんくう総合医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 |

| | |
|---|---|
| 1）専攻医の環境 | ・りんくう総合医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）を設置しています。<br>・「地方独立行政法人りんくう総合医療センターハラスメント防止要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、法人運営本部内部統制課が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・隣接する研修棟の敷地内に院内保育所あり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医は12名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修委員会を設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催（2025 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（りんくうカンファレンス、クリニカルレベルアップセミナー、泉州地域医療フォーラム、りんくう循環器ネットワーク研究会、りんくう糖尿病病診連携の会、泉州 COPD フォーラム、泉州消化器フォーラム、南泉州神経フォーラムなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修委員会が対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも11分野以上）で専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 10 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。<br>・治験事務局を設置し、定期的に治験委員会を開催しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表を行っています。 |
| 指導責任者 | 倭正也<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>　りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院で |

| | |
|---|---|
| | あり、南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。<br>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、さらに、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもった内科専門医になります。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、<br>日本循環器学会循環器専門医 5 名、<br>日本不整脈心電学会専門医 1 名、<br>日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)専門医 1 名、<br>日本消化器病学会認定専門医 5 名、<br>日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、<br>日本肝臓学会認定肝臓専門医 4 名、<br>日本腎臓病学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 3 名、<br>日本高血圧学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 3 名、<br>日本造血・免疫細胞療法学会認定医 1 名、<br>日本輸血細胞治療学会認定管理師 1 名、<br>日本感染症学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、<br>日本呼吸器学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、<br>日本アレルギー学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 1 名<br>日本救急医学会救急科専門医 1 名、<br>日本集中治療医学会専門医 1 名、<br>日本糖尿病学会専門医 2 名、日本甲状腺学会専門医 1 名、<br>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名<br>JMECC ディレクター1 名　ほか |
| 外来・入院患者数<br>(内科系) | 外来患者　6,437　名（平均延数／月）<br>新入院患者　3,564　名（平均数／月） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 内科専門研修プログラム基幹施設<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本IVR学会IVR専門医修練認定施設<br>日本腎臓学会認定教育施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ認定施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本集中治療医学会専門医研修施設<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設・指導医指定施設<br>日本臨床細胞学会認定施設　　など |

大阪労災病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>･独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。<br>･ハラスメント委員会が院内に整備されています。<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ･指導医は 16 名在籍しています（下記）。<br>･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・臨床検査科部長）、プログラム管理者（特任院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。<br>･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実 44 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など； 2025 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |

| | |
|---|---|
| | ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。<br>·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。<br>·専門研修に必要な剖検（2025 年度 6 体、2024 年度実績 7 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。<br>·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。<br>·治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています。<br>·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 19 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 山内　淳<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。<br>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 16 名、日本消化器病学会消化器指導医 9 名、日本内分泌学会指導医 3 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 3 名、日本腎臓学会指導医 3 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 5 名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 6 名、日本透析医学会指導医 3 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名、日本神経学会神経内科指導医 1 名、ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 32,880 名（1 ヶ月平均）　入院患者 16,776 名（1 ヶ月平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本老年医学会認定施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本腎臓学会研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本精神神経学会研修施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本脳卒中学会研修教育病院<br>日本神経学会認定准教育施設　など |

兵庫医科大学病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・ 研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。<br>・ 専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。<br>・ 心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。<br>・ 女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。<br>・ 隣接地の保育園に当院専用枠が 50 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ・ 指導医は 44 名在籍しています。<br>・ 本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。<br>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・ CPC を定期的に開催しています。<br>・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・ 日本専門医機構による施設実地調査に、卒後臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】 | ・ 兵庫医科大学病院には 10 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経 |

| | |
|---|---|
| 3)診療経験の環境 | 験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。<br>・ 専門研修に必要な剖検数を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 木島　貴志<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>兵庫医科大学病院は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という特性から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 44 名<br>日本内科学会総合内科専門医 66 名<br>血液専門医 8 名<br>日本リウマチ学会専門医 9 名<br>日本糖尿病学会認定専門医 11 名<br>日本内分泌学会専門医 9 名<br>日本消化器病学会消化器専門医 24 名<br>日本消化器内視鏡学会専門医 29 名<br>日本呼吸器学会専門医 9 名<br>日本神経学会専門医 4 名<br>日本腎臓学会認定専門医 9 名<br>日本透析医学会認定専門医 11 名<br>日本循環器学会専門医 18 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者数：213,815（延人数）・入院患者数：104,879（延人数） |
| 経験できる疾患群 | 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することが出来ます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本アレルギー学会<br>日本がん治療認定医機構<br>日本リウマチ学会<br>日本肝臓学会<br>日本血液学会<br>日本呼吸器学会 |

| | |
|---|---|
| | 日本呼吸器内視鏡学会<br>日本循環器学会<br>日本消化器内視鏡学会<br>日本消化器病学会<br>日本心血管インターベンション学会<br>日本緩和医療学会<br>日本静脈経腸栄養学会<br>日本動脈硬化学会<br>日本不整脈学会<br>日本神経学会<br>日本大腸肛門病学会<br>日本超音波医学会<br>日本糖尿病学会<br>日本透析医学会<br>日本頭痛学会<br>日本内科学会<br>日本内分泌学会<br>日本脳卒中学会<br>日本輸血・細胞治療学会<br>日本臨床細胞学会<br>日本臨床腫瘍学会<br>日本臨床神経生理学会<br>日本老年医学会<br>日本 IVR 学会<br>日本カプセル内視鏡学会<br>日本高血圧学会<br>日本消化管学会<br>日本胆道学会 |

# 市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和８年５月現在）

市立豊中病院

小杉　智　（プログラム統括責任者，血液内科分野責任者）
中川　理　（研修委員会委員長、循環器内科および救急科分野責任者）
阿部欣也　（呼吸器内科・アレルギー分野責任者）
福井浩司　（消化器内科（肝臓）分野責任者）
西田　勉　（消化器内科（胃腸膵）分野責任者）
竹治正展　（腎臓内科分野責任者）
横江　勝　（脳神経内科分野責任者）
岡内幸義　（内分泌・代謝内科分野責任者）
野里陽一　（老年・総合内科分野責任者）

（膠原病については、各指導医が担当します）

連携施設担当委員

| | |
|---|---|
| 大阪大学医学部附属病院 | 保仙直毅 |
| 市立吹田市民病院 | 火伏俊之 |
| 市立池田病院 | 澤井良之 |
| 箕面市立病院 | 森谷真之 |
| 刀根山病院 | 豊岡圭子 |
| 済生会千里病院 | 増田栄治 |
| 県立西宮病院 | 楢原啓之 |
| 近畿中央病院 | 上道知之 |
| 川崎病院 | 松田守弘 |
| 市立伊丹病院 | 村山洋子 |
| 関西労災病院 | 和泉雅章 |
| 大阪急性期・総合医療センター | 林　晃正 |
| 近畿中央呼吸器センター | 滝本宜之 |
| 大阪はびきの医療センター | 江角　章 |
| 市立芦屋病院 | 安見正人 |
| 西宮市立中央病院 | 小川弘之 |
| 国立病院機構大阪医療センター | 柴山浩彦 |
| 大阪警察病院 | 飯島英樹 |
| りんくう総合医療センター | 倭　正成 |
| 日本生命病院 | 宇津　貴 |
| 大阪労災病院 | 山内　淳 |

整備基準 44 に対応

# 別表１　市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標

## 内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

| | 内容 | 症例数 | 疾患群 | 病歴要約提出数 |
|---|---|---|---|---|
| 分野 | 総合内科Ⅰ（一般） | 計10以上 | 1 | 2 |
| | 総合内科Ⅱ（高齢者） | | 1 | |
| | 総合内科Ⅲ（腫瘍） | | 1 | |
| | 消化器 | 10以上 | 5以上 | 3 |
| | 循環器 | 10以上 | 5以上 | 3 |
| | 内分泌 | 3以上 | 2以上 | 3 |
| | 代謝 | 10以上 | 3以上 | |
| | 腎臓 | 10以上 | 4以上 | 2 |
| | 呼吸器 | 10以上 | 4以上 | 3 |
| | 血液 | 3以上 | 2以上 | 2 |
| | 神経 | 10以上 | 5以上 | 2 |
| | アレルギー | 3以上 | 1以上 | 1 |
| | 膠原病 | 3以上 | 1以上 | 1 |
| | 感染症 | 8以上 | 2以上 | 2 |
| | 救急 | 10以上 | 4 | 2 |
| 外科紹介症例 | | 2以上 | | 2 |
| 剖検症例 | | 1以上 | | 1 |
| 合計 | | 120以上<br>（外来は最大12） | 56 疾患群<br>（任意選択含む） | 29<br>（外来は最大7） |

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

| | 症例 | 疾患群 | 病歴要約 |
|---|---|---|---|
| 目標（研修終了時） | 200 | 70 | 29 |
| 修了要件 | 120 | 56 | 29 |
| 専攻医2年修了時 目安 | 80 | 45 | 20 |
| 専攻医1年修了時 目安 | 40 | 20 | 10 |

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

# 市立豊中病院内科専門研修プログラム
# 専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

市立豊中病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，大阪府豊能医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

市立豊中病院内科専門研修プログラム終了後には，市立豊中病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する，または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です．

2) 専門研修の期間

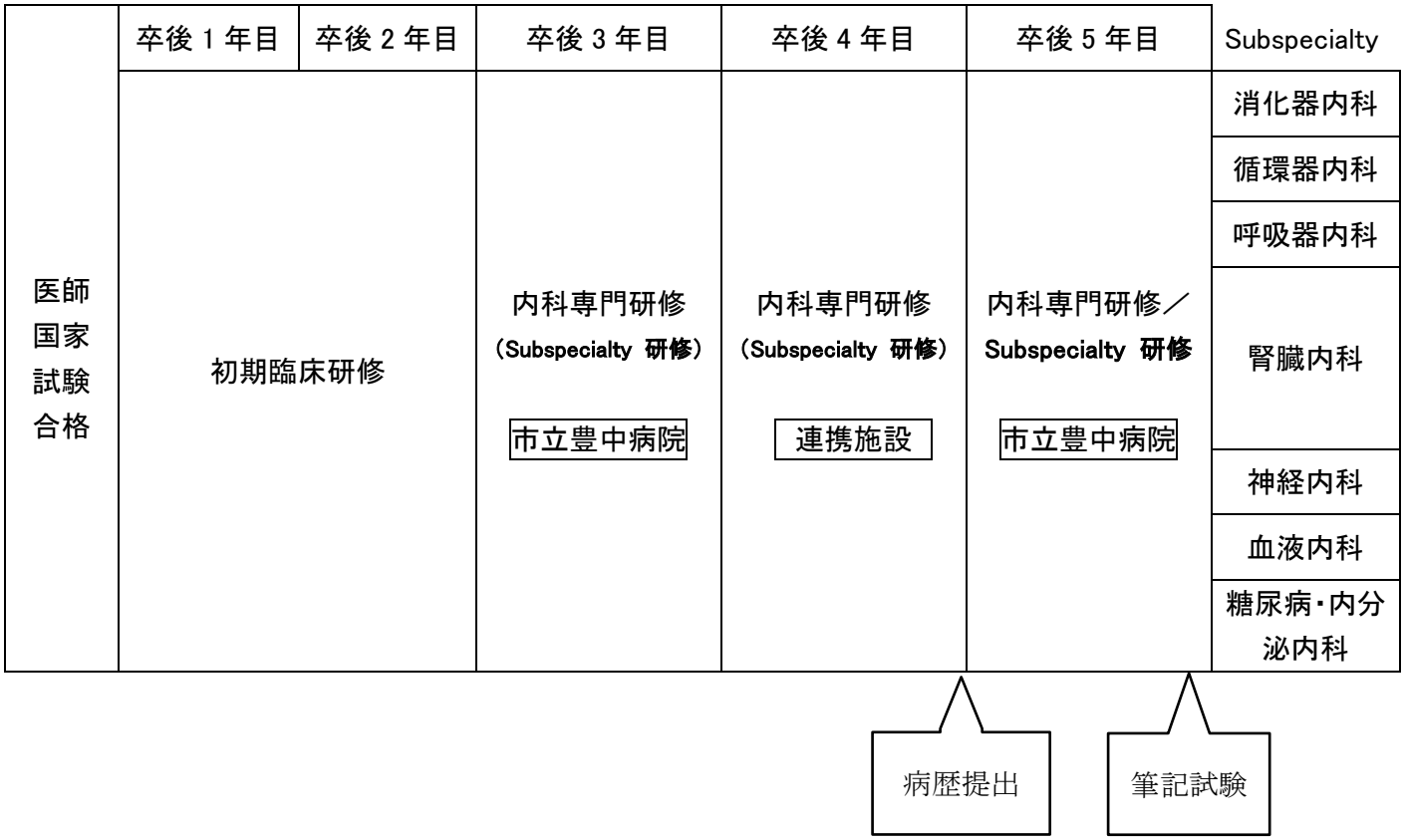



**図１．市立豊中病院内科専門医研修プログラム（概念図）**

1 年目は基幹施設である市立豊中病院内科で専門研修を、2 年目は連携施設で専門研修を、3 年目は市立豊中病院で Subspecialty を含めた専門研修を行なうのを原則とします。希望があれば内科研修当初 2 年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修(Subspecialty 重点研修)の開始を考慮します。

3) 研修施設群の各施設名（「市立豊中病院研修施設群」参照）

基幹施設：市立豊中病院

連携施設：大阪大学医学部附属病院
兵庫医科大学附属病院
市立吹田市民病院
市立池田病院
箕面市立病院
大阪刀根山医療センター
済生会千里病院
県立西宮病院
川崎病院
市立伊丹病院
関西労災病院

大阪急性期・総合医療センター
近畿中央呼吸器センター
大阪はびきの医療センター
市立芦屋病院
西宮市立中央病院
国立病院機構大阪医療センター
大阪警察病院
りんくう総合医療センター
日本生命病院
大阪労災病院

4) プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名
市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（「市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

5) 各施設での研修内容と期間
専門研修 1 年目と 2 年目終了前に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します．1 年間は連携施設で研修し、これは研修 2 年目に行うのを原則とします（図 1）．

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数
7) 基幹施設である市立豊中病院診療科別診療実績を以下の表に示します．市立豊中病院は地域基幹病院であり，コモンディジーズを中心に診療しています．新内科専門医制度においては、定員通り 2017 年度が 9 名、2018 年度も 9 名の一次応募者があり、全員採用に至っています。2019 年度～2023 年度は、シーリングのため、5 名の採用となりました。剖検体数は 2018 年度 13 体、2019 年度は 2 体、2020 年度は 6 体、2021 年度は 9 体、2022 年度は 8 体、2023 年度は 7 体、2024 年度は 8 体、2025 年度は 4 体です。

表．市立豊中病院内科系専門診療科別診療実績（2025 年度）

| | 入院患者実数（人／年） | 外来延患者数（延人数／年） |
|---|---|---|
| 消化器内科 | 2,383 | 38,308 |
| 循環器内科 | 1,383 | 16,127 |
| 脳神経内科 | 598 | 7,379 |
| 内分泌・代謝内科 | 237 | 12,827 |

| | | |
|---|---|---|
| 腎臓内科 | 364 | 8,714 |
| 呼吸器内科 | 603 | 9,356 |
| 血液内科 | 591 | 14,656 |
| 内科（総合内科） | 920 | 1,704 |
| 合計 | 7,079 | 109,071 |

2024 年度より、当院では内科の再編を実施し、内科系科は、内科（総合内科）、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科の 8 診療科で構成されることになりました。内科（総合内科）では、感染症を初めとする一般内科疾患や専門診療科を特定出来ない未診断症例などの診療を行いますが、その主任部長は血液内科主任部長が兼任し、実際の診療については、他の 7 診療科の全医師が協同であたります。すべての領域で外来患者診療を含め，3 学年 15～20 名の専攻医に対し十分な症例を経験させることが可能です。

この他、当院は 24 時間 365 日の救急外来体制をとっており、2025 年度の実績は以下の通りです。

救急外来受診者数：　21,979 名
救急車搬入件数：　9,088 件
救急外来からの入院患者数
　消化器内科：　831 名
　循環器内科：　578 名
　神経内科：　490 名
　内分泌・代謝内科　55 名
　呼吸器内科　247 名
　血液内科　102 名
　腎臓内科　89 名
　総合内科　831 名

7） 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

入院患者担当の目安（基幹施設：市立豊中病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます．

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，

Subspecialty 上級医の判断で 5〜10 名程度を受持ちます．膠原病・救急・感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます．

| 基幹施設例 | 専攻医 1 年目 | 専攻医 3 年目 |
|---|---|---|
| 4 月－ 6 月 | 循環器・呼吸器 | 内科一般／Subspecialty |
| 7 月－ 9 月 | 消化器（胃腸膵・肝） | 内科一般／Subspecialty |
| 10 月－12 月 | 内分泌代謝・腎臓 | Subspecialty |
| 1 月－ 3 月 | 血液・神経 | Subspecialty |

＊ 1 年目は、市立豊中病院内科にて、2 ヶ月間ごとにローテートし、原則としてそれぞれの領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります．これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく，主担当医として診療します（巻末別表 3 参照）．

＊ 2 年目ないし 3 年目は、連携施設での研修を行います．

＊ 3 年目は、市立豊中病院内科ないし連携施設にて、不足する症例の分野を中心に内科一般と Subspecialty 研修をし、内科一般症例が充足した場合は Subspecialty 中心の研修を行います（巻末別表 3 参照）．

＊ 希望があれば内科研修当初 2 年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修(Subspecialty 重点研修)の開始を考慮します。

8) 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 7〜9 月と 1〜3 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．必要に応じて臨時に行うことがあります．

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします．

9) プログラム修了の基準

① J-OSLER を用いて，以下の ⅰ)〜ⅵ)の修了要件を満たすこと．

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みです（巻末別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています．

ⅲ）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります．

ⅳ）JMECC 受講歴が 1 回あります．

ⅴ）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります．

ⅵ）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます．

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを市立豊中病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 か月前に市立豊中病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります.

10) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii）履歴書

iii）市立豊中病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します.

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

11) プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う（「市立豊中病院研修施設群」参照）.

12) プログラムの特色

① 本プログラムは，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院である市立豊中病院を基幹施設として，大阪府豊能医療圏，近隣医療圏および大阪府にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間です.

② 市立豊中病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

③ 基幹施設である市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携

も経験できます.

④ 基幹施設である市立豊中病院での 1 年間と連携施設での 1 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例（少なくとも 20 症例）の病歴要約を作成できます（巻末の別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

⑤ 市立豊中病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 2 年目（ないしは 3 年目）の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します.

⑥ 基幹施設である市立豊中病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（巻末別表 1 「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を主担当医として経験し，J-OSLER に登録します.

13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します．結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります.

・カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，市立豊中病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

16) その他

特になし.

## 別表１　市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標

### 内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

| | 内容 | 症例数 | 疾患群 | 病歴要約提出数 |
|---|---|---|---|---|
| 分野 | 総合内科Ⅰ（一般） | 計10以上 | 1 | 2 |
| | 総合内科Ⅱ（高齢者） | | 1 | |
| | 総合内科Ⅲ（腫瘍） | | 1 | |
| | 消化器 | 10以上 | 5以上 | 3 |
| | 循環器 | 10以上 | 5以上 | 3 |
| | 内分泌 | 3以上 | 2以上 | 3 |
| | 代謝 | 10以上 | 3以上 | |
| | 腎臓 | 10以上 | 4以上 | 2 |
| | 呼吸器 | 10以上 | 4以上 | 3 |
| | 血液 | 3以上 | 2以上 | 2 |
| | 神経 | 10以上 | 5以上 | 2 |
| | アレルギー | 3以上 | 1以上 | 1 |
| | 膠原病 | 3以上 | 1以上 | 1 |
| | 感染症 | 8以上 | 2以上 | 2 |
| | 救急 | 10以上 | 4 | 2 |
| 外科紹介症例 | | 2以上 | | 2 |
| 剖検症例 | | 1以上 | | 1 |
| 合計 | | 120以上<br>(外来は最大12) | 56 疾患群<br>(任意選択含む) | 29<br>(外来は最大7) |

**補足**

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

| | 症例 | 疾患群 | 病歴要約 |
|---|---|---|---|
| 目標（研修終了時） | 200 | 70 | 29 |
| **修了要件** | 120 | 56 | 29 |
| 専攻医2年修了時 目安 | 80 | 45 | 20 |
| 専攻医1年修了時 目安 | 40 | 20 | 10 |

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

## 別表２　市立豊中病院内科系診療グループの特徴

### 血液内科

1） 週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | モーニングカンファ後、病棟診療 | | | | |
| 午後 | | | | 主任部長回診 | |
| 夕方 | | 内科医会 | 血液内科カンファレンス | | |

午前 11 時に外来輸血、午後からは骨髄検査などの処置があります。

2）血液内科の特徴

＊　血液疾患の症例が豊富（大阪府下でも最上位群に位置する症例数）で、良性・悪性の血液疾患を、全分野（赤血球、白血球・リンパ球、血小板・止血など）にわたって万遍なく経験可能です。

＊　完全無菌室２床、準無菌室６床を備える、日本血液学会専門医研修施設です。

＊　悪性リンパ腫・多発性骨髄腫の適応症例に、自己末梢血幹細胞移植を施行しています。二重特異性抗体療法にも対応しています。

＊　外来化学療法にも積極的に対応しています。

＊　当院は「がんゲノム医療連携病院」なので、2025 年度より導入された「血液疾患遺伝子パネル検査」にも対応できる数少ない病院のひとつです。

＊　血液内科カンファレンスには、看護師・臨床検査部技師（血液・輸血担当者）・病棟薬剤師など他職種からも参加してもらっています。

＊JALSG 準会員であり、他にも多くの多施設共同臨床研究に参加しています。

＊専攻医を筆頭者とした臨床研究の学会発表や、論文指導も行っています。

### 呼吸器内科

1）週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | | 気管支鏡 | | | 気管支鏡 |
| 午後 | 合同カンファ（外科） | | | 呼吸器カンファ | |

2）呼吸器内科の特徴

＊　症例数が多く、疾患も多岐にわたっている。

＊　救急指定病院であり、緊急入院が多い。

＊　重症の呼吸不全患者は麻酔科と連携し、ICU 管理で治療を行っている。

＊ 呼吸器外科とは週に１回合同カンファを行っており、肺癌、自然気胸、膿胸など手術適応症例がスムーズに外科へ転科できるシステムが構築されている。
＊ 肺癌に関しては、呼吸器外科以外にも脳神経外科・放射線科と連携し、集学的治療が行われている。
＊ 気管支鏡は年間約１５０例施行している。
＊ 日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設であり、認定医取得のための資格が得られる。

**消化器内科**

1）週間スケジュール

月～金： AM8：40 朝礼、連絡事項の通知等

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | | 上部消化管内視鏡検査・治療 | 腹部超音波検査 | 上部消化管内視鏡検査・治療 | 上部消化管内視鏡検査・治療 |
| 午後 | 下部消化管内視鏡検査・治療 | 肝生検・ラジオ波焼灼療法 | ERCP・下部消化管内視鏡検査・治療 | | ERCP・下部消化管内視鏡検査・治療 |
| | 消化器内科・外科・放射線科合同症例検討会 | 内科系合同症例検討会・CPCなど | 内視鏡病理検討会／抄読会など | 消化器内科症例検討会 | |

2）消化器内科の特徴

＊ 消化管内視鏡検査および内視鏡下治療に積極的に取り組み、症例数は非常に多い。大腸ポリープの EMR をはじめ、食道癌・胃癌・大腸癌に対する ESD も多数例施行している。
＊ 救急患者が多く、消化管出血に対する緊急内視鏡検査や内視鏡下止血術の症例数が豊富である。
＊ 胆膵疾患に
＊ 対する ERCP を多数例行い、緊急胆道ドレナージやステント療法も行なっている。EUS-FNA にも積極的に取り組んでいる。
＊ 肝疾患領域では、各種肝炎治療や肝癌に対する RFA を行なっている。
＊ 消化器癌に対する化学療法にも力を入れている。
＊ 外科・放射線科との連携も強く、共同でカンファランスを行なっている。
＊ 阪大病院を中心とした多施設共同臨床研究や当科独自の臨床研究に取り組んでいる。
＊ 学会発表、国際学会発表、論文発表を多数行なっている。

**脳神経内科**

1）週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 電気生理検査 | 電気生理検査 | | 電気生理検査 | |
| 午後 | 脳血管撮影 | | | 部長回診<br>神経内科カンファ | |
| 夕方 | | 内科系医会 | 脳卒中カンファ | | |

毎朝　SCU カンファレンスあり

週 1～２回、神経内科救急当番（時間内）

２）神経内科の特徴

＊　神経内科領域全般（急性神経疾患、神経難病、免疫関連疾患、てんかん、頭痛など）の幅広い疾患が経験できる。

＊　脳卒中センター（神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科）がある。

＊　SCU 当直があり、脳卒中超急性期（t-PA、脳血管内治療）も経験できる。

＊　神経内科専門医に加えて、subspeciality（脳卒中、電気生理、頭痛、リハビリテーション、パーキンソン病、認知症など）の専門医師がおり、指導が充実している。

＊　大阪大学神経内科を中心に多施設とも連携し、勉強会、情報交換会を行っている。

**腎臓内科**

１）週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 人工透析 | 人工透析 | 人工透析 | 人工透析 | 人工透析 |
| 午後 | | | 腎生検/病棟回診・カンファレンス/勉強会 | 夕：透析カンファレンス | |

（土曜日にも人工透析あり：交代当番制）

２）　腎臓内科の特徴

＊　慢性腎炎の診断（腎生検）・治療から慢性腎臓病の管理、腎代替療法開始まで腎疾患の長い経過の診療に携わることができる。（人工透析室の運用・腹膜透析外来・腎代替療法選択外来も行っている）。水・電解質異常の診断・治療にも力を入れている。

＊　他科疾患に伴って生じる腎の病態や電解質異常のコンサルテーションも積極的に受けており、経験症例も多い。
＊　最新の知見の習得に努め、それに基づいた新しい治療法も積極的に取り入れている。
＊　外来維持血液透析は行っていないが、他院での維持血液透析患者が併発症で入院した場合の管理を多く経験できる。
＊　積極的に研究会や学会発表を行っている。
＊　大阪大学腎臓内科学講座とその関連病院とも密に連携し、情報交換・研究会を行っている。

**循環器内科**

1）週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 心カテ | 心カテ<br>リハビリ<br>核医学検査 | 心カテ | 心カテ（不整脈）<br>核医学検査 | 心カテ<br>リハビリ |
| 午後 | 心カテ<br>心肺運動負荷検査 | 心カテ | 心カテ<br>リハビリ | 心カテ（不整脈）<br>リハビリ | 心カテ |

平日は毎日朝と夕にカンファレンスあり

2）循環器内科の特徴

* 心臓病センターとして循環器内科・心臓血管外科が協同して診療している。
* 地域の基幹病院として 24 時間体制で多数の循環器救急疾患患者を受け入れている。
* 冠動脈疾患に対するカテーテル検査や治療を数多く行っている。
* 下肢閉塞性動脈硬化症や腎動脈狭窄に対してカテーテル治療を行っている。
* アブレーション（心房細動）やペースメーカー植込みなど不整脈疾患に対する侵襲的治療も積極的に行っている。
* 指導体制が充実しており、当科での研修により循環器専門医、総合内科専門医としての基礎的な力を身につけることができる。
* 心臓リハビリテーションや多職種での心疾患マネジメントにも力を入れており、複合的病態を総合的に診療することができる。
* 多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。
* 国内・国際学会での発表、論文発表を行っている。

**内分泌・代謝内科**

1）　週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 負荷試験<br>病　棟 | 負荷試験<br>病　棟 | 負荷試験<br>病　棟 | 負荷試験<br>病　棟 | 負荷試験<br>病　棟 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 糖尿病専門<br>外来 | 糖尿病専門<br>外来 | 糖尿病専門<br>外来 | 糖尿病専門<br>外来 | 糖尿病専門<br>外来 |
| 午後 | 糖尿病専門<br>外来 | 糖尿病専門<br>外来 | 透析予防外来<br>糖尿病専門<br>外来 | 糖尿病専門<br>外来 | 糖尿病専門<br>外来 |
| | | 専門回診 | 糖尿病教室<br>診療科ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ | | |

2）内分泌代謝内科の特徴

＊ 急性期病院である当院には、糖尿病ケトアシドーシスや高血糖高浸透圧症候群などの高血糖緊急症や低血糖症が多く搬送され、年間 50-60 例入院治療を行っている。

＊ 甲状腺クリーゼや副腎クリーゼなど内分泌救急症例の受け入れも多い。

＊ 周産期センターにハイリスク分娩例が多く通院していることから、妊娠糖尿病や糖尿病合併妊婦を管理する機会が多い。

＊ 糖尿病コントロール（教育含む）入院患者は毎年 200 例近くあり、各種病型・病態・病期の糖尿病症例を経験し、患者教育やチーム医療を実践できる。

＊ インスリンポンプ（CSII)、持続血糖測定器（CGM)、両者を組み合わせた SAP（Sensor Augmented Pump）療法、 HCL（ハイブリッドクローズドループ）療法など先進機器を用いる治療を必要に応じて導入している。

＊ 新規発症のバセドウ病や橋本病、亜急性甲状腺炎など甲状腺疾患の紹介例が多く、治療開始時から患者を診療できる。

＊ 副腎インシデンタローマ、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、サブクリニカルクッシング症候群、クッシング症候群、ACTH 単独欠損症、汎下垂体機能低下症などの副腎・下垂体疾患症例を、診断から治療まで院内で完結して経験できる。特に当院では癌治療が多く行われていることから、irAE による内分泌代謝疾患（副腎皮質機能低下症など）も多い。

＊ リサーチマインド育成に力を入れており、例年数編の学術論文を発表している。内科学会、糖尿病学会、内分泌学会、肥満学会など、関連する各学会に毎年演題を発表している。また、大阪大学内分泌代謝内科の関連施設の内分泌代謝内科スタッフと専攻医、研修医が集う OEMCC（大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス）で症例発表を行い、他施設との連携と情報交換を行っている。

**老年・総合内科**

1）　週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 外来<br>病棟診療 | 外来<br>病棟診療 | 外来<br>病棟診療 | 外来<br>病棟診療 | 外来<br>病棟診療 |
| 午後 | 病棟診療 | 病棟診療<br>内科系医会 | 病棟診療 | 病棟診療 | 病棟診療 |

２）　　老年・総合内科の特徴

＊　幅広い疾患と病態を経験できる：
発熱、浮腫、倦怠感、ふらつき、原因不明の疼痛など、専門診療科では対応が難しい非特異的症状に対し、初期対応から診断・治療までを担う。common disease から希少疾患まで、多彩な症例を通じて全人的診療能力を修得できる。

＊　高齢者医療に特化した研修：
高齢者特有の病態（フレイル、サルコペニア、認知症、ポリファーマシー、生活機能障害など）に対して、身体機能や認知機能、社会背景を考慮した診療方針を構築する力を養う。 急性期治療と生活支援の両立を図る視点が身につく。

＊　多職種連携によるチーム医療：
看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、MSW、栄養士など多職種と連携し、包括的なケアマネジメントを実践する。特に、在宅復帰支援や ACP を通じて、地域包括ケアの中核を担う総合力を高めることができる。

＊　教育・指導、研究支援体制：
日本老年医学会認定専門医や総合内科専門医が在籍しており、指導が充実している。大阪大学老年・総合内科学講座との連携により、学会発表、論文執筆、臨床研究など、希望に応じた学術活動への支援も受けられる。

＊　多様なキャリアに通じる汎用性の高い専門性：
病院総合医、地域医療におけるかかりつけ医、在宅医療、緩和ケアなど、幅広い将来像に対応可能な臨床力を身につけることができる。

整備基準 45 に対応

# 市立豊中病院内科専門修プログラム
# 指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が市立豊中病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.

・担当指導医は，専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します.

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や内科専門研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います.

2) 専門研修の期間

・ 年次到達目標は，巻末の別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」に示すとおりです.

・担当指導医は，内科専門研修センターと協働して，3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・担当指導医は，内科専門研修センターと協働して，6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・担当指導医は，内科専門研修センターと協働して，6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.

・担当指導医は，内科専門研修センターと協働して，毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．評価終了後，1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します.

3) 専門研修の期間

・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います.

・J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います.
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除，修正などを指導します.

4) J-OSLER の利用方法
・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します.
・担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います.
・専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します.
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します.
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と内科専門研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
・担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します.

5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握
専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，市立豊中病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6) 指導に難渋する専攻医の扱い
必要に応じて，臨時（毎年 7～9 月と 1～3 月とに予定の他に）で，J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます．状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇
市立豊中病院および連携施設の給与規定によります.

8) FD 講習の出席義務
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.
指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います.

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用
内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」

を熟読し，形成的に指導します.

10） 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11） その他
特になし.

## 別表１　市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標

## 内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

| | 内容 | 症例数 | 疾患群 | 病歴要約提出数 |
|---|---|---|---|---|
| 分野 | 総合内科Ⅰ（一般） | 計10以上 | 1 | 2 |
| | 総合内科Ⅱ（高齢者） | | 1 | |
| | 総合内科Ⅲ（腫瘍） | | 1 | |
| | 消化器 | 10以上 | 5以上 | 3 |
| | 循環器 | 10以上 | 5以上 | 3 |
| | 内分泌 | 3以上 | 2以上 | 3 |
| | 代謝 | 10以上 | 3以上 | |
| | 腎臓 | 10以上 | 4以上 | 2 |
| | 呼吸器 | 10以上 | 4以上 | 3 |
| | 血液 | 3以上 | 2以上 | 2 |
| | 神経 | 10以上 | 5以上 | 2 |
| | アレルギー | 3以上 | 1以上 | 1 |
| | 膠原病 | 3以上 | 1以上 | 1 |
| | 感染症 | 8以上 | 2以上 | 2 |
| | 救急 | 10以上 | 4 | 2 |
| 外科紹介症例 | | 2以上 | | 2 |
| 剖検症例 | | 1以上 | | 1 |
| 合計 | | 120以上<br>(外来は最大12) | 56 疾患群<br>(任意選択含む) | 29<br>(外来は最大7) |

**補足**

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

| | 症例 | 疾患群 | 病歴要約 |
|---|---|---|---|
| 目標（研修終了時） | 200 | 70 | 29 |
| **修了要件** | 120 | 56 | 29 |
| 専攻医2年修了時 目安 | 80 | 45 | 20 |
| 専攻医1年修了時 目安 | 40 | 20 | 10 |

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。